

韓国環境部プレスリリース 2020年2月21日付

## 京畿道と江原道の野生いのししから ASF ウイルス検出（野生いのしし 230-237 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1322870&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は2月19日京畿道(キョンギド)坡州市(パジュシ)郡内面(クンネミョン)、漣川郡(ヨンチョングン)百鶴面(ペツカンミョン)および長南面(チャンナムミョン)、江原道(カンウォンド)華川郡(ファチョングン)華川邑(ファチョンウプ)で発見された野生いのししの死体8個体からASFウイルスが検出されたと2月20日明らかにした。

国立環境科学院は2月20日死体8個体からASFウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで坡州市(パジュシ)64件、漣川郡(ヨンチョングン)70件、華川郡(ファチョングン)81件の野生いのししASF陽性事例となり、全国では237件になった。

ASF標準行動指針により試料採取後現場消毒と共に野生いのししの死体を処理した。

国立環境科学院は「今回陽性となった死体のうち、坡州市(パジュシ)と漣川郡(ヨンチョングン)で発見された6個体は、民間制限線内2次フェンスの中で発見され、華川郡(ファチョングン)で発見された2個体は、2月17日に陽性個体が発見された地点から2.2~2.3km離れた所で発見された。この地域では感染死体がさらに出てくる可能性が高く、徹底的に捜索している」と述べた。

以上